

侵略者に強いメッセージを

ゼレンスキー氏 国会演説

リモートで国会演説をするウクライナのゼレンスキー大統領。23日午後6時6分、上田幸一撮影

ロシアの侵攻を受けるウクライナのゼレンスキー大統領が23日、リモートで国会演説し、「日本がすぐに援助の手を差し伸べてくれた。心から感謝している」と述べた。「侵略者に対する強いメッセージが必要だ」と強調し、日本政府に国連改革やロシアとの貿易禁止を求めた。



ゼレンスキー氏の演説は、オンライン会議システムで国会内の会議室とウクライナをつないで実施され、在日ウクライナ大使館の職員が同時通訳した。岸田文雄首相や衆参両院議長ら515人が出席した。

演説は約12分間で、冒頭に日本政府の対応に謝意を示した。チェルノブイリ原子力発電所などへのロシア軍の攻撃に言及し、「核物質の処理場をロシアが戦場に奪った」と強く批判した。原発事故当時のがれき

や資材が周辺の地中に埋められていると説明。侵攻による周辺への放射能汚染に懸念を示し、「戦争が終わってから、どれだけ大きな環境被害があったかを調査するのには何年もかかるだろう」と語った。ウクライナ

にある4カ所の原発が「すべて非常に危険な状況にある」と訴えた。国民の苦境にも触れて「子ども、孫のため将来を守るための努力が必要だ」と主張した。また、国連安全保障理事会で常任理事国であるロシ

アが拒否権を行使している状況も踏まえ、国際機関や国連安保理が「機能しなかった」とし、国連改革の必要性を訴えた。「新しい予防的なツールを作らないといけない。本心に侵略を止められるようなツールだ」と日本政府が主導的な役割を果たすことを期待した。

「ロシアに対する圧力をかけることによって平和を戻すことができる」とも話し、日本政府のロシアに対する経済制裁を継続するよう要請するとともに、ロシア市場からの日本企業撤退やロシアとの貿易取引の禁止を要望した。ウクライナ復興への協力も求めた。

演説後、岸田首相は記者団に、追加の制裁や人道支援を検討する考えを示し、「困難に直面するウクライナの方々を国際社会全体でしっかり支えていかなければならない」と述べた。

(機部佳孝)